

今月は、食で地域を元気にする姫路おでん普及委員会の取り組みを紹介するよ。

11月には『第6回B級ご当地グルメの祭典!B-1グランプリin姫路』も招致して、地元で大盛り上がりなんだって。地元では当たり前だった「姫路おでん」で、どんなまちおこしをしているのかな。



みんなで作る ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

食文化の豊かな街、 姫路でまちおこしを

姫路は昔から、赤穂の塩、播州のしょうゆなど、加工品の産地として知られ、調味料や味にはこだわりのある街である。「姫路おでん普及委員会」の会長 前川裕司さんは、「食は人を元気にする。美味しいものがあればみんなが喜ぶ」と語る。

もともと前川さんは、市民活動を応援する中間支援組織「コムサロン21」を立ち上げ、社会起業家の育成やNPOの経営支援などを行ってきた。姫路の人・モノ・金を結びつけ、新しい切り口で産業を再興し、地域の活性化を図ろうと、「コムサロン21」は平成18年から姫路食文化協会の事務局を担ってきた。

地域活性化に向けて目を付けたのが、姫路を中心にごく限られた地域でのおでんの食べ方。しょうが醤油をつけて食べるこのおでんを「姫路おでん」と名付け、「姫路おでん普及委員会」を発足、ご当地グルメとしてまちおこしを行うことにした。

「姫路おでん」の全国ブランド化でまちおこし

～姫路おでん普及委員会のチャレンジ～

仕事をつくり、人が集まる！ 「姫路おでん」からまちおこし

当初、前川さんは「姫路おでん」が、地元ではあまりにも一般的なため、これがまちおこしになるのか確信がなかったと語る。

ところが、平成20年の姫路菓子博で設置した「おでんガーデン」が大好評。これをきっかけに、地元は大いに盛り上がり、企業や商店、ホテルなどが賛同して姫路おでん協同組合を設立。今年8月に「姫路おでん」は特許庁の地域団体商標に登録された。今や100近くの団体が加盟し、姫路おでんを提供する福祉事業所



食を通して人もまちも元気に
(前川裕司さん)



マスコットキャラクター「しょうちゃん」と一緒に「姫路おでん」の認知度アップ!

も出てきた。
今年11月、姫路市で開催される「第6回B級ご当地グルメの祭典!B-1グランプリin姫路」に「姫路おでん」を出展する。B-1グランプリを姫路に招致できたことで、さらに知名度アップが見込める。

地域団体やNPO、企業、行政などの姫路への思いをしみこませた「姫路おでん」。ご当地グルメとして広く全国に紹介することにより、さらに多くの人に姫路を知ってもらい、来てもらうことを目指している。

取材を終えて

姫路をPRしていこうという取り組みがどんどん広がっています。多くのアイデアや仕掛けが「まちおこし」の力ギを握っているようです。

「おでんには“からし”が当たり前だ。“しょうが醤油”につけて食べて美味しいはずがない!」と思ったそこのあなた。是非、姫路まで足を運んで、姫路おでんを食べてみてください。

姫路おでん普及委員会 ☎(079)224-8803
兵庫県姫路市下寺町43
姫路商工会議所 新館4F
NPO法人コムサロン21内